



幸せのおすそわけ 町おこし

心
あ
つ
た
か
ニ
ュ
ー
ス

四つ葉のクローバーを使った町おこしのニュースをご紹介いたします。愛知県田原市の道の駅では、四つ葉のクローバーのつた大福、クッキーの四つ葉を集めた商品でゴールデンウィークはにぎわうそうです。四つ葉のクローバーは、シロツメクサの茎のうち、小葉を4枚持つものがある。通常みられる3枚の小葉の変異体に相当する。言い伝えによると四つ葉のクローバーは幸運をもたらすということです。4番目の小葉の発生原因は、遺伝か環境か意見が割れているが、発生50000から100000本に1本という確率です。キリスト教の伝説によると、楽園追放に際し、楽園の一部だけが四つ葉のクローバーを持って出たとか。四つ葉のクローバーが高い確率で見つかる、田原市は10年前から伊良湖岬の人気観光地

「恋路ヶ浜」を幸せの四つ葉のクローバー発祥の地」に指定。町おこしに取り組んでいます。このクローバーを市内の自宅脇のハウスで自然交配で増やしている折戸裕美さん。ハウスの中には、たくさんの四つ葉のクローバーが。折戸さんがクローバーの研究を始めたのは16年前。きっかけはボランティアで依頼された絵本作りでした。四つ葉のクローバーを絵本のテーマにした時、実際に四つ葉のクローバーって、どんなふうについているんだらうっていうのを研究しないと描けないと思い、絵本作りの為に渥美半島中から約300株のクローバーを集め、同じ条件で育てたところ、伊良湖町のものだけが高い確率で四つ葉以上になることが分かりました。地域活性化に役立てると思います。研究を続けることにしたそうです。四つ葉のクローバーを使った町おこしプロジェクトの立ち上げにも携わりました。四つ葉のクローバーは、市内の障害者支援施設で「お守り」などが製作されるなど、就労支援にも一役かっています。四つ葉の

クローバーを通して、渥美半島・田原市から、幸せをちよつとでも「おすそわけ」できたら」と折戸さんは語っています。
「幸運」のおすそわけ。四つ葉のクローバーでの町おこしへの挑戦は続きます。ヤフーニュース
「四つ葉のクローバー」で町おこしに取り組む女性 ボランティアの絵本作りから研究家へ 今では五つ葉以上も見られるようにより)

編集後記

みんなのためになることは、どんな大きく実をむすんで、広がっていくことがわかります。その情熱もとても強いもので、とてもパワーがあると思います。幸せのおすそわけをしている人ももらう人も幸せなんだなと思います。